

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	水戸看護福祉専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	看護学科 (3年制) (旧カリキュラム) (新カリキュラム)	夜・通信	240	240	
			240	240	
	看護学科 (通信制) (旧カリキュラム) (新カリキュラム)	夜・ <u>通信</u>	180	160	
			180	160	
<p>(備考)</p> <p>看護学科 (3年課程) 令和4年4月1日学則変更に伴い、新旧カリキュラムにより授業を実施。 (1・2学年は新カリキュラム、3学年は旧カリキュラムを実施)</p> <p>看護学科 (通信制) 令和5年4月1日学則変更に伴い、新旧カリキュラムにより授業を実施 (1学年は新カリキュラム、2学年は旧カリキュラムを実施)</p>					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ ( <a href="https://www.mito.ac.jp/">https://www.mito.ac.jp/</a> ) で公開する。
---

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	水戸看護福祉専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ (<https://www.mito.ac.jp/>) で公開する。

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	相談役	2021. 4. 1～ 2024. 3. 31	企画
非常勤	取締役営業本部長	2021. 4. 1～ 2024. 3. 31	コンプライアンス
非常勤	支店長	2021. 4. 1～ 2024. 3. 31	労務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	水戸看護福祉専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>*シラバスの作成過程及び時期</p> <p>10月 教育課程(案)の内容を検討</p> <p>11月 教育課程編成会議において審議</p> <p>2月 授業計画(シラバス)の決定</p> <p>*シラバスの公開時期 毎年4月</p>	
授業計画書の公表方法	ホームページ ( <a href="https://www.mito.ac.jp/">https://www.mito.ac.jp/</a> ) で公開する。
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成績の評価は、学科試験及び実習成績により判定する。学業成績は、各授業科目のいずれも100点満点とする。A・B・C・Dの評語をもって表し、A(80点以上)・B(70～80点未満)・C(60～70点未満)を合格とし、D(60点未満)は不合格とする。</li> <li>・看護学科の実習を含む履修認定については、授業時間数の3分の2以上の出席を必要とする。</li> <li>・介護福祉学科は、授業時間数の3分の2以上の出席、実習時間数の5分の4以上の出席とする。</li> <li>・授業計画に成績評価の方法・基準を示したうえで、成績評価のための試験を実施し、実習成果及び授業履修状況を勘案し、学修成果を判定している。</li> </ul>	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。 (100点満点で点数化)</li> <li>・下位4分の1に位置する学生に対して、個別指導等により成績の改善を促す。</li> </ul>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>ホームページ (<a href="https://www.mito.ac.jp//">https://www.mito.ac.jp//</a>) で公開する。</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>人間尊重の理念に基づく看護師に関する教育を行い、社会に貢献し得る有能な医療・福祉に関する人材となるため養成することを目的とし、授業を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修業年限以上を在学していること。</li> <li>・学則第10条に規定する授業科目及び授業時間数を履修していること。</li> <li>・学則第13条及び第14条に基づいて全科目の単位を取得していること。</li> <li>・出席すべき日数の3分の2以上を出席していること。</li> </ul> <p>以上の要件を満たした学生について認定会議にて検討し、社会に貢献する有能な看護師となる学生を決定する。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>ホームページ (<a href="https://www.mito.ac.jp//">https://www.mito.ac.jp//</a>) で公開する。</p>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	水戸看護福祉専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="https://www.mito.ac.jp/">https://www.mito.ac.jp/</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="https://www.mito.ac.jp/">https://www.mito.ac.jp/</a>
財産目録	学校事務局に備え付け・閲覧及び配布することが可能
事業報告書	学校事務局に備え付け・閲覧及び配布することが可能
監事による監査報告（書）	学校事務局に備え付け・閲覧及び配布することが可能

## 2. 教育活動に係る情報

### ①学科等の情報-1

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療分野		医療専門課程	看護学科 (3年制)	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	2,960 単位時間/単位	2,040 単位時間 /単位	単位時間 /単位	920 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120人		116人	0人	10人	82人	92人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) <ul style="list-style-type: none"> <li>シラバスの作成過程及び時期            10月 教育課程 (案) の内容を検討            11月 教育課程編成会議において審議            2月 授業計画 (シラバス) の決定</li> <li>シラバスの公開時期 毎年4月            入学時オリエンテーションにて学生へ配布説明。</li> </ul>
成績評価の基準・方法
(概要) <ul style="list-style-type: none"> <li>履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。            (100点満点で点数化)</li> <li>下位4分の1に位置する学生に対して、個別指導等により成績の改善を促す。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
(概要) 人間尊重の理念に基づく看護師に関する教育を行い、社会に貢献し得る有能な医療・福祉に関する人材となるため養成することを目的とし、授業を進めていく。 <ul style="list-style-type: none"> <li>修業年限以上を在学していること。</li> <li>学則第10条に規定する授業科目及び授業時間数を履修していること。</li> <li>学則第13条及び第14条に基づいて全科目の単位を取得していること。</li> <li>出席すべき日数の3分の2以上を出席していること。</li> </ul> 以上の要件を満たした学生について認定会議にて検討し、社会に貢献する有能な看護師となる学生を決定する。
学修支援等
(概要) 入学時に学業特待制度・資格特待制度があり、評定平均が3.5以上の者は4科目 (国語・数学・英語・作文) の試験を受け、成績によって授業料を免除する。また、各種資格を取得している者は授業料の免除がある。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
39人 (100.0%)	0人 (%)	37人 (94.9%)	2人 (5.1%)
(主な就職、業界等) 病院			
(就職指導内容) 求人紹介、病院見学、病院説明会			
(主な学修成果（資格・検定等）) 看護師国家試験の受験資格			
(備考)（任意記載事項） 令和4年4月1日学則変更に伴い、新旧カリキュラムにより授業を実施。（1・2学年は新カリキュラム、3学年は旧カリキュラムを実施）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
118人	2人	1.7%
(中途退学の主な理由) 進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生個人や保護者との面談、スクールカウンセラー設置		

①学科等の情報-2

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療分野		医療専門課程	看護学科 (通信制)				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	3,060 単位時間/単位	2,340 単位時間 /単位	単位時間 /単位	720 単位時間 /単位	単位時間 /単位	単位時間 /単位
			単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
300人		212人	0人	9人	3人	12人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シラバスの作成過程及び時期           <ul style="list-style-type: none"> <li>10月 教育課程(案)の内容を検討</li> <li>11月 教育課程編成会議において審議</li> <li>2月 授業計画(シラバス)の決定</li> </ul> </li> <li>シラバスの公開時期 毎年4月 入学時オリエンテーションにて学生へ配布説明。</li> </ul>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する。 (100点満点で点数化)</li> <li>下位4分の1に位置する学生に対して、個別指導等により成績の改善を促す。</li> </ul>
卒業・進級の認定基準
<p>(概要)</p> <p>人間尊重の理念に基づく看護師に関する教育を行い、社会に貢献し得る有能な医療・福祉に関する人材となるため養成することを目的とし、授業を進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>修業年限以上を在学していること。</li> <li>学則第10条に規定する授業科目及び授業時間数を履修していること。</li> <li>学則第13条及び第14条に基づいて全科科目の単位を取得していること。</li> <li>出席すべき日数の3分の2以上を出席していること。</li> </ul> <p>以上の要件を満たした学生について認定会議にて検討し、社会に貢献する有能な看護師となる学生を決定する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>本校通信学習への学習相談は、開校時の直接面接指導の他、学生の希望に応じて電子メール、電話、FAX等を活用し対応している。カリキュラム外の無料自由参加ができる講座として看護師国家試験支援講座を月2回、放送大学単位取得学習支援を年3回実施している。</p>



卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
103 人 (100.0%)	0 人 (0.0%)	101 人 (98.1%)	2 人 (1.9%)
(主な就職、業界等) 病院、診療所、福祉施設など			
(就職指導内容) 求人紹介、病院見学、病院説明会			
(主な学修成果（資格・検定等）) 看護師国家試験の受験資格			
(備考)（任意記載事項） 令和5年4月1日学則変更に伴い、新旧カリキュラムにより授業を実施。（1学年は新カリキュラム、2学年は旧カリキュラムを実施）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
221 人	3 人	1.4%
(中途退学の主な理由) 経済上・健康上の理由		
(中退防止・中退者支援のための取組) 学生個人や保護者との面談、スクールカウンセラー設置		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
看護学科 (3年制)	150,000 円	600,000 円	677,000 円	その他 (施設設備費、実習費、教材費、実習着代、模擬試験料、学校行事費)
看護学科 (通信制)	100,000 円	420,000 円	100,000 円	その他 (施設設備・実習費、通信費、保険費、教材費、国家試験対策模擬試験費)
修学支援 (任意記載事項)				
学業特待制度…試験を受け、結果により授業料の免除。 資格特待制度…取得資格により授業料の免除。				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ ( <a href="https://www.mito.ac.jp/">https://www.mito.ac.jp/</a> ) で公開する。		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
学校自ら自己評価を行うとともに、病院・福祉施設他業界団体が委員として参画する学校関係者評価を実施・公表し、評価結果に基づき学校運営体制の改善を図る。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
医療法人 蔦会 アイビークリニック	2022年2月1日～2027年3月31日	企業等
独立行政法人 国立病院機構 水戸医療センター	2022年2月1日～2027年3月31日	卒業生
特定非営利活動法人 だいち	2022年2月1日～2027年3月31日	地域住民
茨城大学 大学院教授	2022年2月1日～2027年3月31日	学識経験者
常磐大学 准教授	2022年2月1日～2027年3月31日	学識経験者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ ( <a href="https://www.mito.ac.jp/">https://www.mito.ac.jp/</a> ) で公開する。		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ ( <a href="https://www.mito.ac.jp/">https://www.mito.ac.jp/</a> ) で公開する。
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	H108320100158
学校名	水戸看護福祉専門学校
設置者名	学校法人 八文字学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		14人	14人	14人
内訳	第Ⅰ区分	-	11人	
	第Ⅱ区分	-	-	
	第Ⅲ区分	-	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				14人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	0人		
計	0人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学(修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。)、及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。)	
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学(期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。)の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。



3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等 短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）		
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	—		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	0人		
計	—		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

1. 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

○令和4年度

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	看護学科(3年制)		学年	1	学生数	38
成績の分布						
指標の数値	~50点	50 ~60点未満	60 ~70点未満	70 ~80点未満	80 ~90点未満	90 ~100点
人数	0	1	2	25	10	0
下位 1/4に該当する人数 9 人						
下位 1/4に該当する指標の数値 81.0 点以下						

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	看護学科(3年制)		学年	2	学生数	38
成績の分布						
指標の数値	~50点	50 ~60点未満	60 ~70点未満	70 ~80点未満	80 ~90点未満	90 ~100点
人数	0	0	0	1	22	15
下位 1/4に該当する人数 9 人						
下位 1/4に該当する指標の数値 91.0 点以下						

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	看護学科(3年制)		学年	3	学生数	40
成績の分布						
指標の数値	~50点	50 ~60点未満	60 ~70点未満	70 ~80点未満	80 ~90点未満	90 ~100点
人数	1	0	0	8	27	4
下位 1/4に該当する人数 10 人						
下位 1/4に該当する指標の数値 89.0 点以下						

1. 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料

○令和4年度

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	看護学科(通信制)		学年	1	学生数	117
成績の分布						
指標の数値	~50点	50 ~60点未満	60 ~70点未満	70 ~80点未満	80 ~90点未満	90 ~100点
人数	3	0	1	3	21	89
下位 1/4に該当する人数 29 人						
下位 1/4に該当する指標の数値 89.0 点以下						

客観的な指標の算出方法						
履修科目の成績表を点数化し、全科目の合計点の平均を算出する(100点満点で点数化)						
学科名	看護学科(通信制)		学年	2	学生数	104
成績の分布						
指標の数値	~50点	50 ~60点未満	60 ~70点未満	70 ~80点未満	80 ~90点未満	90 ~100点
人数	0	0	0	3	58	43
下位 1/4に該当する人数 26 人						
下位 1/4に該当する指標の数値 87.0 点以下						

実務経験のある教員等による授業科目

看護学科 (3年制)

1・2年次 (新カリキュラム)

シラバス提出分授業時数 240時間

区分	教育内容	科目名	配当年次	単位	授業時数	実務経験	シラバス提出
基礎分野	科学的思考の基礎・人間と生活・社会の理解	人間関係論Ⅰ (コミュニケーション)	1	1	30	有 認定心理士5年以上	○
		健康と障がい	1	1	15	有 医師5年以上	
		小計		2	45		30
専門基礎分野Ⅰ	疾病の成り立ちと回復の促進	薬理学の基礎	1	1	30	有 薬剤師5年以上	○
		疾病理解の看護学的視点	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		病態生理学 (診断と治療・がんの診断と治療)	1	1	30	有 医師5年以上	○
		臨床病態学Ⅰ (呼吸器、循環器疾患)	1	1	30	有 医師5年以上	○
		臨床病態学Ⅱ (血液・造血器、消化器疾患)	1	1	15	有 医師5年以上	
		臨床病態学Ⅲ (腎・泌尿器、内分泌、皮膚疾患)	1	1	15	有 医師5年以上	
		臨床病態学Ⅳ (運動器疾患とリハビリ、眼科耳鼻科、脳神経疾患)	1	1	15	有 医師5年以上	
		臨床病態学Ⅴ (精神障害)	1	1	15	有 医師5年以上	
	臨床病態学Ⅵ (小児・女性生殖器)	1	1	30	有 医師5年以上	○	
	健康支援と社会保障制度	医療概論	1	1	15	有 医師5年以上	
小計		10	225		150		
専門分野	基礎看護学	看護学概論	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		共通基本技術 (コミュニケーション・記録・報告・観察・感染予防・指導技術)	1	1	30	有 看護師5年以上	○
		生活援助技術Ⅰ (環境・事故防止)	1	1	30	有 看護師5年以上	
		生活援助技術Ⅱ (食事・排泄)	1	1	30	有 看護師5年以上	
		生活援助技術Ⅲ (活動・休息・姿勢)	1	1	30	有 看護師5年以上	
		生活援助技術Ⅳ (清潔・衣生活)	1	1	30	有 看護師5年以上	
		診療援助技術Ⅰ (検査・診察・採血等)	1	1	30	有 看護師5年以上	
		診療援助技術Ⅱ (与薬)	1	1	30	有 看護師5年以上	
		臨床看護総論	1	1	30	有 看護師5年以上	
		フィジカルアセスメント	1	1	30	有 看護師5年以上	
		看護過程	1	1	30	有 看護師5年以上	
		成人看護学	成人看護学概論	1	1	30	有 看護師5年以上
	老年看護学	老年看護学概論	1	1	15	有 看護師5年以上	
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1	1	40	有 看護師5年以上	
		基礎看護学実習Ⅱ	1	1	40	有 看護師5年以上	
基礎看護学実習Ⅲ		1	2	80	有 看護師5年以上		
小計		17	160		60		
合計		29	430		240		

3年次 (旧カリキュラム)

区分	教育内容	科目名	配当年次	単位	授業時数	実務経験	シラバス提出
基礎分野	人間と生活・社会の理解	心理学	2	1	30	有 認定心理士5年以上	○
		人間関係論Ⅱ (討議法)	2	1	15	有 認定心理士5年以上	
		人間関係論Ⅲ (カウンセリング)	2	1	30	有 認定心理士5年以上	○
	小計		3	75		60	
専門基礎分野Ⅰ	疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	2	1	30	有 医師5年以上	○
		栄養学	2	1	30	有 栄養士5年以上	○
	健康支援と社会保障制度	医療安全	3	1	15	有 看護師5年以上	
		公衆衛生	2	1	15	有 看護師5年以上	
		関係法規	2	1	15	有 医師5年以上	
小計		5	105		60		



看護学科（3年制）

3年次（旧カリキュラム）

区分	教育内容	科目名	配当年次	単位	授業時数	実務経験	シバス提出	
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学Ⅱ（リハビリテーション期①）	2	1	30	有 看護師5年以上	○	
		成人看護学Ⅲ（リハビリテーション期②）	2	1	30	有 看護師5年以上	○	
		成人看護学Ⅳ（周手術期）	2	1	30	有 看護師5年以上	○	
		成人看護学Ⅴ（慢性期）	2	1	30	有 看護師5年以上	○	
		成人看護学Ⅵ（ターミナル期）	2	1	30	有 看護師5年以上		
	老年看護学	老年看護学Ⅲ（治療を必要とする高齢者の看護）	2	1	30	有 看護師5年以上		
		老年看護学Ⅳ（看護過程）	2	1	30	有 看護師5年以上		
	小児看護学	小児看護学Ⅱ（健康障害をもつ小児の生活と看護）	2	1	30	有 看護師5年以上		
		小児看護学Ⅲ（病児の看護）	2	1	30	有 看護師5年以上		
		小児看護学Ⅳ（看護過程）	2	1	30	有 看護師5年以上		
	母性看護学	母性看護学Ⅱ（性と生殖）	2	1	15	有 助産師5年以上		
		母性看護学Ⅲ（マタニティサイクル）	2	1	30	有 助産師5年以上		
		母性看護学Ⅳ（看護過程）	2	1	30	有 助産師5年以上		
	精神看護学	精神看護学Ⅱ（援助論1）	2	1	30	有 看護師5年以上		
		精神看護学Ⅲ（援助論2）	2	1	30	有 看護師5年以上		
		精神看護学Ⅳ（看護過程）	2	1	15	有 看護師5年以上		
	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ	3	2	90	有 看護師5年以上		
		成人看護学実習Ⅱ	3	2	90	有 看護師5年以上		
		成人看護学実習Ⅲ	3	2	90	有 看護師5年以上		
		老年看護学実習Ⅰ	2	2	90	有 看護師5年以上		
		老年看護学実習Ⅱ	3	2	90	有 看護師5年以上		
		小児看護学実習Ⅰ	2	1	45	有 看護師5年以上		
		小児看護学実習Ⅱ	3	1	45	有 看護師5年以上		
		母性看護学実習	3	2	90	有 看護師5年以上		
		精神看護学実習	3	2	90	有 看護師5年以上		
	小計				32	1170		120
	統合分野	在宅看護論	在宅看護論Ⅰ（概論）	2	1	15	有 看護師5年以上	
			在宅看護論Ⅱ（看護技術）	2	1	30	有 看護師5年以上	
在宅看護論Ⅲ（看護過程）			2	1	30	有 看護師5年以上		
在宅看護論Ⅳ（地域看護）			2	1	15	有 看護師5年以上		
看護の統合と実践		看護の統合と実践Ⅰ（チーム医療と看護管理）	3	1	15	有 看護師5年以上		
		看護の統合と実践Ⅱ（看護技術の統合）	3	1	30	有 看護師5年以上		
		看護の統合と実践Ⅲ（災害看護・国際看護）	3	1	30	有 看護師5年以上		
		看護の統合と実践Ⅳ（看護研究）	3	1	30	有 看護師5年以上		
臨地実習		在宅看護論実習	3	2	90	有 看護師5年以上		
		看護の統合と実践実習	3	2	90	有 看護師5年以上		
小計				12	375			
合計				52	1725		240	

【整理表】	配当年次	単位	授業時数
新カリキュラム （自 令和4年度入学生）	1・2年次	29	430
旧カリキュラム （至 令和3年度入学生）	3年次	52	1725
合計		81	2155

実務経験のある教員等による授業科目

看護学科（通信制）

1年次（新カリキュラム）

シラバス提出分授業時数 180時間

区分	教育内容	科目名	配当年次	単位	授業時数	実務経験	本校教員担当			
							単位	授業時数	シラバス提出	
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考	1年	2	90	有	臨床心理士5年以上	-	-	
		情報科学	1年	2	90	有	臨床心理士5年以上	-	-	
	人間と生活・社会の理解	心理学	2年	2	90	有	臨床心理士5年以上	-	-	
		社会学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
	小計				8	360		0	0	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		栄養学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		微生物学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		薬理学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
社会福祉		2年	2	90	有	介護福祉士5年以上	2	90		
小計				14	630		2	90		
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		看護の共通基本技術	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		看護過程の基礎	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		日常生活の援助技術	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		診療に伴う援助技術	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		地域包括ケアシステムを支える看護	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		地域包括ケアシステムを支える看護の実際	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		訪問看護の実際	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	成人看護学	成人看護学概論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		成人看護学方法論	1年	2	90	有	看護師5年以上	2	90	
	老年看護学	老年看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		老年看護学方法論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	小児看護学	小児看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		小児看護学方法論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	母性看護学	母性看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		母性看護学方法論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	精神看護学	精神看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		精神看護学方法論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	看護の統合と実践	看護管理	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		医療安全	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		災害・国際看護	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
	基礎看護学実習	基礎看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		基礎看護学実習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	地域・在宅看護学実習	地域・在宅看護論事例演習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		地域・在宅看護論実習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	成人・老年看護学実習	成人・老年看護学事例演習Ⅰ	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		成人・老年看護学実習Ⅰ	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		成人・老年看護学事例演習Ⅱ	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		成人・老年看護学実習Ⅱ	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	小児看護学実習	小児看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		小児看護学実習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	母性看護学実習	母性看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
母性看護学実習		2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45		
精神看護学実習	精神看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45		
	精神看護学実習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45		
看護の統合と実践実習	看護の統合と実践事例演習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45		
	看護の統合と実践実習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45		
小計				46	2070		32	1440	180	
合計				68	3060		34	1530	180	

区分	教育内容	科目名	配当年次	単位	授業時数	実務経験		本校教員担当		
								単位	授業時数	シラバス提出
基礎分野	科学的思考の基盤	論理的思考	1年	2	90	有	臨床心理士5年以上	-	-	
		心理学	2年	1	45	有	臨床心理士5年以上	1	45	○
	人間と生活・社会の理解	人間関係論	1年	2	90	有	臨床心理士5年以上	-	-	
		社会学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
	小計			7	315			1	45	45
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		栄養学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		微生物学	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		社会福祉	2年	2	90	有	介護福祉士5年以上	2	90	
小計			14	630			2	90		
専門分野Ⅰ	基礎看護学	基礎看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		看護の共通基本技術	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		看護過程の基礎	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		日常生活の援助技術	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		診療に伴う援助技術	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	基礎看護学実習	基礎看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		基礎看護学実習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	小計			8	360			6	270	45
専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		成人看護学方法論	1年	2	90	有	看護師5年以上	2	90	
	老年看護学	老年看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		老年看護学方法論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	小児看護学	小児看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		小児看護学方法論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	母性看護学	母性看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	1	45	
		母性看護学方法論	1年	1	45	有	看護師5年以上	-	-	
	精神看護学	精神看護学概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		精神看護学方法論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	成人看護学実習	成人看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		成人看護学実習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	老年看護学実習	老年看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		老年看護学実習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	小児看護学実習	小児看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		小児看護学実習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	母性看護学実習	母性看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		母性看護学実習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
精神看護学実習	精神看護学事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45		
	精神看護学実習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45		
小計			25	1125			17	765	45	
統合分野	在宅看護論	在宅看護概論	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
		在宅看護方法論	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	看護の統合と実践	看護管理	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	○
		医療安全	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		災害・国際看護	1年	2	90	有	看護師5年以上	-	-	
	在宅看護論実習	在宅看護論事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		在宅看護論実習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	看護の統合と実践実習	看護の統合と実践事例演習	1年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
		看護の統合と実践実習	2年	1	45	有	看護師5年以上	1	45	
	小計			11	495			7	315	45
合計			65	2925			33	1485	180	

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）

看護学科（3年制）

水戸看護福祉専門学校

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：認定心理士5年以上																
授業科目：人間関係論Ⅰ（コミュニケーション）	単位（時間）：1単位（30時間）																
授業担当：小幡 知史	開講時期：1年次 前期																
<p>科目の概要・目的</p> <p>看護師同士、看護師と患者との関係、看護師と医師との関係、看護師と医療従事者との関係など、さまざまな人との関係にとって大切なことは、どのように話すか、即ちコミュニケーション技術とスタイルである。自分自身のコミュニケーション技術の傾向を知り、コミュニケーション技術の向上を目指す。また、自己啓発の一助にしていく。</p> <p>対象との関係性を築くための、コミュニケーション能力を身につけることを目的とする。</p>																	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分をよく知る</li> <li>2. コミュニケーションの、それぞれ違ったスタイルを見分ける</li> <li>3. 気づいた事柄をよりはっきりと、直接的に率直的に表現できるような技法を身につける</li> <li>4. 相手の言うことを正確に聴き、理解するための技法を身につける</li> <li>5. 自分とパートナーの、自尊心を養うための技法を身につける</li> <li>6. あることについての、話のきっかけをつくる技法を身につける</li> </ol>																	
<p>学習概要（授業計画）</p> <table> <tr> <td>1.</td> <td>カップル・コミュニケーション</td> <td>10～12.</td> <td>信頼関係の構築</td> </tr> <tr> <td>2～4.</td> <td>自己への気づき</td> <td>13～14.</td> <td>まとめ／発表</td> </tr> <tr> <td>5～6.</td> <td>他者への気づき</td> <td>15.</td> <td>まとめ・終講試験</td> </tr> <tr> <td>7～9.</td> <td>コミュニケーションの型</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		1.	カップル・コミュニケーション	10～12.	信頼関係の構築	2～4.	自己への気づき	13～14.	まとめ／発表	5～6.	他者への気づき	15.	まとめ・終講試験	7～9.	コミュニケーションの型		
1.	カップル・コミュニケーション	10～12.	信頼関係の構築														
2～4.	自己への気づき	13～14.	まとめ／発表														
5～6.	他者への気づき	15.	まとめ・終講試験														
7～9.	コミュニケーションの型																
<p>学習上の注意</p> <p>成人・家族と看護専門職としてのコミュニケーションは異なると理解することから始まる。話を聞く、相手の気持ちを考えた対話ができる、コミュニケーション障害のある対象への対話テクニックと段階的に難易度を上げ模擬実践しながら看護専門職としての技術を学ぶ。</p>																	
<p>成績評価の方法</p> <p>終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。</p>																	
<p>使用テキスト</p> <p>講義の際に資料提示する</p>																	
<p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 河津良子・河津雄介著：エクササイズによる看護のための自己開発，ナカニシヤ出版</li> <li>2. 系統看護学講座 基礎看護学Ⅰ 医学書院</li> </ol>																	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：薬剤師5年以上
授業科目：薬理学の基礎	単位（時間）：1単位（30時間）
授業担当：大谷 俊裕 他	開講時期：1年次 前期
<p>科目の概要・目的</p> <p>看護師の薬物療法への理解が十分あることは、治療効果を高めることにつながる。薬物の生体への作用を知り、安全で効果的な薬物療法が提供できるよう、看護師として必要な知識について学ぶ。また、医師・薬剤師・看護師の連携についても学ぶ。</p> <p>薬物療法の効果を高めるための、薬物に対する基本的な知識を身につけることを目的とする。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物に対する、生体の応答（作用・有害作用）について理解する</li> <li>2. 生体の状態を調整する、輸液・輸血について理解する</li> <li>3. 主な薬剤に対する服薬指導、看護のポイントを理解する</li> <li>4. 処方箋や添付文書の読み方について理解する</li> </ol>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬理学とは</li> <li>2～3. 神経系に作用する薬</li> <li>4. 呼吸器系に作用する薬</li> <li>5～6. 消化器系に作用する薬 循環器系・血液に作用する薬</li> <li>7～8. 炎症・免疫系に作用する薬 抗感染症薬</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>9. 泌尿器系に作用する薬</li> <li>10～11. 内分泌系に作用する薬</li> <li>12～13. 抗腫瘍薬</li> <li>14. 目に作用する薬</li> <li>15. まとめ・終講試験</li> </ol>
<p>学習上の注意</p> <p>薬の効能書をもとに薬の作用や使用方法の実際を理解する</p>	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する</li> </ol>	
<p>使用テキスト</p> <p>いちばんやさしい薬理学 成美堂出版</p>	
<p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 堀坂和敬、木皿憲佐訳：問題を中心とした薬理学 廣川書店</li> <li>2. 高久史麿修：治療薬マニュアル 医学書院</li> <li>3. 新体系看護学全集 薬理学 メヂカルフレンド社</li> </ol>	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上
授業科目： 疾病理解の看護学的視点	単位（時間）： 1単位（30時間）
授業担当： 柴田 順子	開講時期： 1年次 後期
<b>科目の概要・目的</b> 看護実践の場では、チーム医療を推進して看護師が役割をさらに発揮するため、高度な看護実践能力が「特定行為」として認められるようになった。「特定行為」とは医師にしかできなかったことを看護師でもできることである。そのために習得すべき要素として、臨床で使える解剖学・生理学・病理学・薬理学やフィジカル・イグザミネーションが挙げられ、年齢や状況に応じた病態の変化や治療の特性を包括的に判断できる知識と技術を習得することが必要となる。本科目では、これらの要素を看護の視点でとらえることが看護実践力に結びつくことを理解し、思考過程及び判断過程の知識を身につけることを目的とする。	
<b>授業の到達目標</b> 1. 看護師が適切に臨床実践を行うに際し、対象の身体的情報を的確にとらえ、臨床場面における臨床推論の思考過程を踏まえてアセスメントした結果としての臨床判断に結びつけていくことの必要性を理解できる。 2. 臨床推論、臨床判断の基本的な考え方について理解できる。 3. 臨床場面において、症例に対する情報収集を主体的に行うことができる。 4. 臨床場面において、重要な病態の変化や疾患を包括的にいち早くアセスメントできる。 5. 多様な臨床場面において必要な治療を理解し、ケアを導くことができる。	
<b>学習概要（授業計画）</b> 1～2. 臨床推論と臨床判断 ・臨床推論と臨床判断の違い ・臨床判断に必要な看護の視点 ・臨床推論技法の種類と展開 3～4. 事例検討の基礎（事例1：個人ワーク） 5～6. 事例1発表 7～12. 臨床判断演習（事例2：グループワーク） 13～14. 発表とリフレクション 15. まとめ・終講試験	
<b>学習上の注意</b> 1. 個人ワーク・グループワークが学習の中心となる。自ら積極的に考え、学ぶ姿勢をもって臨むこと。 2. 学生個々の実践能力を高めるため、他学生・他グループの発表に対するリフレクションにも積極的に参加すること。	
<b>成績評価の方法</b> ミニテスト、終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する	
<b>使用テキスト 自作資料</b>	
<b>参考図書</b> 1. ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち①病態生理学 山内豊明編 メディカ出版 2. 病態・疾患学 病態生理から治療までわかる 林洋著 羊土社 3. アセスメントに自信がつく臨床推論入門 小沢和子編 メディカ出版 4. 臨床判断ティーチングメソッド 三浦友理子・奥裕美著 医学書院	

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上												
授業科目：病態生理学 (診断と治療・がんの診断と治療)	単位(時間)：1単位(30時間)												
授業担当：武島玲子／高屋敷典生	開講時期：1年次 前期												
<p>科目の概要・目的</p> <p>臨床病態学は医学を理解する基礎となる学問である。臨床病態学Ⅰでは、正常状態との比較において病的な状態、つまり、病気の成り立ちや、身体内での病的変化が、実際にはどのようなものであるかを学習する。医学用語に慣れ、これらの知識を自分のものにして、看護の実践力にしていく。</p> <p>本講義では病気の成り立ちと医学診断に必要な検査、主な治療方法について学ぶ。また、死亡率、有病率とも高いがんの診断と治療について理解し、現代医療の知識を深める。</p> <p>病気の成り立ちと、主な診断法・治療法を理解することを目的とする。</p>													
<p>授業の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病気の原因・誘因を理解する</li> <li>2. 身体の中で、どのような変化が生じているのか理解する</li> <li>3. 疾病予防について理解する</li> <li>4. 疾病の診断法や治療法および、検査を理解する</li> <li>5. がんの診断と治療を学び、現代医学の最新医療について理解する</li> </ol>													
<p>学習概要(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 臨床病態学序論</td> <td>9. 周手術期患者の管理</td> </tr> <tr> <td>2. 細胞・組織の障害と修復</td> <td>10. 感染症</td> </tr> <tr> <td>3～4. 循環障害</td> <td>11. 主な診断と主な治療</td> </tr> <tr> <td>5～6. 炎症と免疫</td> <td>12～13. 腫瘍、移植と再生治療</td> </tr> <tr> <td>7. 重症患者の治療</td> <td>14. がんの診断と治療</td> </tr> <tr> <td>8. 救急患者の治療</td> <td>15. まとめ・終講試験</td> </tr> </table>		1. 臨床病態学序論	9. 周手術期患者の管理	2. 細胞・組織の障害と修復	10. 感染症	3～4. 循環障害	11. 主な診断と主な治療	5～6. 炎症と免疫	12～13. 腫瘍、移植と再生治療	7. 重症患者の治療	14. がんの診断と治療	8. 救急患者の治療	15. まとめ・終講試験
1. 臨床病態学序論	9. 周手術期患者の管理												
2. 細胞・組織の障害と修復	10. 感染症												
3～4. 循環障害	11. 主な診断と主な治療												
5～6. 炎症と免疫	12～13. 腫瘍、移植と再生治療												
7. 重症患者の治療	14. がんの診断と治療												
8. 救急患者の治療	15. まとめ・終講試験												
<p>学習上の注意</p> <p>この科目および臨床病態学Ⅰ～Ⅳは、常に関連付けて学習していく</p>													
<p>成績評価の方法</p> <p>終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する</p>													
<p>使用テキスト</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院</p>													
<p>参考図書</p> <p>講義の際に提示</p>													



実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上														
授業科目：臨床病態学Ⅰ (呼吸器、循環器疾患)	単位(時間)：1単位(30時間)														
授業担当：武島玲子/渡辺重行 他	開講時期：1年次 後期														
<p>科目の概要・目的</p> <p>本科目では、呼吸器・循環器における疾患の診断と治療について学習する。心臓や肺は、互いに関連しながら、生命の維持活動を行う大切な臓器であり、症状や、病気のメカニズムを基本から学習する。また、胸部エックス線所見や心電図などの診断方法の基本を学び、フィジカルアセスメントにその知識を活用できるようにする。</p> <p>酸素化の障害に関連する身体のメカニズムを理解し、呼吸器・循環器疾患の診断・治療に関する基本的な知識を身につけることを目的とする。</p>															
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガス交換のメカニズムと障害による症状を理解する</li> <li>2. 心循環と体循環の役割と障害による症状を理解する</li> <li>3. 心不全、呼吸不全のメカニズムと、診断方法及び経過に伴う治療方法を理解する</li> <li>4. 救急処置に使用する、機器の作用について理解する</li> </ol>															
<p>学習概要(授業計画)</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 呼吸器の構造と機能</td> <td>7. 循環器の構造と機能</td> </tr> <tr> <td>2. 呼吸器の症状と病態生理</td> <td>8. 循環器の症状と病態生理</td> </tr> <tr> <td>3. 呼吸器の検査・治療・処置</td> <td>9. 循環器の検査・治療・処置</td> </tr> <tr> <td>4～5. 呼吸器疾患の理解</td> <td>10～11. 循環器疾患の理解</td> </tr> <tr> <td>6. 呼吸器の外科的治療法</td> <td>12～13. 循環器疾患の内科的治療</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14. 先天性疾患、その他</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ・終講試験</td> </tr> </table>		1. 呼吸器の構造と機能	7. 循環器の構造と機能	2. 呼吸器の症状と病態生理	8. 循環器の症状と病態生理	3. 呼吸器の検査・治療・処置	9. 循環器の検査・治療・処置	4～5. 呼吸器疾患の理解	10～11. 循環器疾患の理解	6. 呼吸器の外科的治療法	12～13. 循環器疾患の内科的治療		14. 先天性疾患、その他		15. まとめ・終講試験
1. 呼吸器の構造と機能	7. 循環器の構造と機能														
2. 呼吸器の症状と病態生理	8. 循環器の症状と病態生理														
3. 呼吸器の検査・治療・処置	9. 循環器の検査・治療・処置														
4～5. 呼吸器疾患の理解	10～11. 循環器疾患の理解														
6. 呼吸器の外科的治療法	12～13. 循環器疾患の内科的治療														
	14. 先天性疾患、その他														
	15. まとめ・終講試験														
<p>学習上の注意</p> <p>生化学、解剖生理学の既習の知識をもとに学習を深める</p>															
<p>成績評価の方法</p> <p>終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する</p>															
<p>使用テキスト</p> <table border="0"> <tr> <td>系統看護学講座 専門分野Ⅱ</td> <td>成人看護学</td> <td>呼吸器 2</td> <td>医学書院</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>循環器 3</td> <td>医学書院</td> </tr> </table>		系統看護学講座 専門分野Ⅱ	成人看護学	呼吸器 2	医学書院			循環器 3	医学書院						
系統看護学講座 専門分野Ⅱ	成人看護学	呼吸器 2	医学書院												
		循環器 3	医学書院												
<p>参考図書</p> <p>講義の際に提示</p>															
<p>DVD</p> <p>講義の際に提示</p>															

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上												
授業科目：臨床病態学VI（小児・女性生殖器）	単位（時間）：1単位（30時間）												
授業担当：重光貞彦／伊部茂晴／太田正康 他	開講時期：1年次 後期												
<p>科目の概要・目的</p> <p>本科目では、小児及び女性特有の疾患における診断と治療について学習する。女性の生理に関連した病理的変化を中心に理解し、成人看護学での看護過程につなげる。また、現在における小児疾患の診断と治療法及び、予後について学習し、さらに、出生前診断、合併奇形による予後等、小児の将来のQOLを考慮した治療法に関して学ぶ。</p> <p>母子に起こりやすい病態を理解し、病変が小児の成長発達、女性のライフサイクルにおよぼす影響について理解することを目的とする。</p>													
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性のライフサイクルにおける、生理的な変化に伴う病変について理解する</li> <li>2. 女性生殖器の疾患の病態および、診断と治療について理解する</li> <li>3. 小児期の特異な疾患を、発生学・小児期の病態生理を基に理解する</li> <li>4. 小児の各疾患の、現在の診断・治療法の基礎、予後について理解する</li> <li>5. 出生前診断、合併奇形による予後など、小児の将来のQOLを考慮した治療等を理解する</li> </ol>													
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1～4. 生殖器系疾患の診断と治療</td> <td>10.小児の内分泌疾患・成長障害・代謝性疾患</td> </tr> <tr> <td>5. 性感染症と治療</td> <td>11.小児外科の対象となる疾患と治療</td> </tr> <tr> <td>6. 出生前疾患・先天異常の診断、治療</td> <td>12.小児の泌尿器・生殖器疾患の診断、治療</td> </tr> <tr> <td>7. 小児の神経系の疾患と治療</td> <td>13.小児の循環器疾患の診断、治療</td> </tr> <tr> <td>8. 小児の消化器疾患の診断と治療</td> <td>14.小児の血液・造血器疾患、悪性腫瘍の診断、治療</td> </tr> <tr> <td>9. 小児の免疫・アレルギー性疾患・呼吸器疾患・感染症の診断、治療</td> <td>15.まとめ・終講試験</td> </tr> </table>		1～4. 生殖器系疾患の診断と治療	10.小児の内分泌疾患・成長障害・代謝性疾患	5. 性感染症と治療	11.小児外科の対象となる疾患と治療	6. 出生前疾患・先天異常の診断、治療	12.小児の泌尿器・生殖器疾患の診断、治療	7. 小児の神経系の疾患と治療	13.小児の循環器疾患の診断、治療	8. 小児の消化器疾患の診断と治療	14.小児の血液・造血器疾患、悪性腫瘍の診断、治療	9. 小児の免疫・アレルギー性疾患・呼吸器疾患・感染症の診断、治療	15.まとめ・終講試験
1～4. 生殖器系疾患の診断と治療	10.小児の内分泌疾患・成長障害・代謝性疾患												
5. 性感染症と治療	11.小児外科の対象となる疾患と治療												
6. 出生前疾患・先天異常の診断、治療	12.小児の泌尿器・生殖器疾患の診断、治療												
7. 小児の神経系の疾患と治療	13.小児の循環器疾患の診断、治療												
8. 小児の消化器疾患の診断と治療	14.小児の血液・造血器疾患、悪性腫瘍の診断、治療												
9. 小児の免疫・アレルギー性疾患・呼吸器疾患・感染症の診断、治療	15.まとめ・終講試験												
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発生学・小児の生理的特徴、発達の生理等の基礎的知識を整理・予習しておく。</li> <li>2. 講義の順番は、講師の都合により変更することがある。詳細は後日掲示を参照のこと。</li> </ol>													
<p>成績評価の方法</p> <p>終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。</p>													
<p>使用テキスト</p> <p>1. 新体系 看護学全書 24 成人看護学[11]女性生殖器 <span style="float:right">メヂカルフレンド社</span></p>													
<p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児看護叢書 第1巻～第5巻 及川郁子監修 <span style="float:right">メヂカルフレンド社</span></li> <li>2. プリンシプル産科婦人科学1 <span style="float:right">メヂカルレビュー社</span></li> <li>3. プリンシプル産科婦人科学2 <span style="float:right">メヂカルレビュー社</span></li> </ol>													

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上										
授業科目：看護学概論	単位（時間）：1単位（30時間）										
授業担当：大槻 解子	開講時期：1年次 前期										
<p>科目の概要・目的</p> <p>看護職は、健康生活支援の専門家として、専門的知識・技術・態度が求められている。</p> <p>「看護とは何か」「看護職とは何をするのか」看護の歴史や諸理論から幅広く看護学の主たる概念を学習し、実践の科学である看護に対する理解を深め自らの看護観を明確にしていく。</p> <p>看護の対象である人間理解、健康の概念、看護とは何かについて学び、専門職としての看護のあり方を理解することを目的とする。</p>											
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の発展と看護の定義を理解する</li> <li>2. 看護の対象を理解する</li> <li>3. 健康の概念を理解する</li> <li>4. 看護の目的、役割と機能を理解する</li> <li>5. 看護者としての看護倫理を理解する</li> </ol>											
<p>学習概要（授業計画）</p> <table> <tr> <td>1. 看護とは何か</td> <td>10. 看護の提供者</td> </tr> <tr> <td>2～3. 看護の定義</td> <td>11. 看護の提供のしくみ</td> </tr> <tr> <td>4. 看護の役割と機能</td> <td>12～13. 看護の提供者のしくみ</td> </tr> <tr> <td>5～7. 看護の対象である人間の理解</td> <td>14. 広がる看護の活動領域</td> </tr> <tr> <td>8～9. 健康の捉え方と国民の健康状態</td> <td>15. まとめ・終講試験</td> </tr> </table>		1. 看護とは何か	10. 看護の提供者	2～3. 看護の定義	11. 看護の提供のしくみ	4. 看護の役割と機能	12～13. 看護の提供者のしくみ	5～7. 看護の対象である人間の理解	14. 広がる看護の活動領域	8～9. 健康の捉え方と国民の健康状態	15. まとめ・終講試験
1. 看護とは何か	10. 看護の提供者										
2～3. 看護の定義	11. 看護の提供のしくみ										
4. 看護の役割と機能	12～13. 看護の提供者のしくみ										
5～7. 看護の対象である人間の理解	14. 広がる看護の活動領域										
8～9. 健康の捉え方と国民の健康状態	15. まとめ・終講試験										
<p>学習上の注意</p> <p>看護学の基礎であり、積極的な態度で学んでほしい</p>											
<p>成績評価方法</p> <p>出席状況、課題レポート状況、終講試験を総合して評価する</p>											
<p>使用テキスト</p> <p>専門分野Ⅰ 看護学概論 基礎看護学① 医学書院</p>											
<p>参考図書</p> <p>基礎看護学概論 メジカルフレンド社</p>											
<p>DVD</p> <p>1.フローレンス・ナイチンゲール その1、その2</p>											

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上								
授業科目： 共通基本技術 (コミュニケーション・記録・報告・感染予防・指導技術)	単位（時間）： 1単位（30時間）								
授業担当： 小森 由美	開講時期： 1年次 前期								
<p>科目の概要・目的</p> <p>人間関係を発達させる技術として、コミュニケーション技術が不可欠である。コミュニケーションの手段として、相互のメッセージの意味や感情の理解を深め、信頼関係を築くことが必要になってくる。そのための技法を学ぶことが大切である。</p> <p>看護師は人々の健康の維持・促進、回復といった過程に関わるため、基本的ケアの一部として観察・記録・報告・教育・指導は切り離すことができない。殊に看護師は、対象の保健指導として、看護を行うために指導する存在となる。それは、看護師が意識していなくても、教育・指導は看護と深く関係している。また、感染予防では、基本的知識・技術を理解し、無菌的な操作が実施できるようにする。感染予防の必要性を学び、病院での物品や患者の使用物、汚染物の取り扱いの知識を学ぶ。</p> <p>看護活動に共通する基本的看護技術を習得することを目的とする。</p>									
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションの特徴と、医療・看護における重要性を理解する</li> <li>2. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、適切なメッセージの伝え方を学ぶとともに、看護記録のための観察のポイントを理解する</li> <li>3. 感染予防の基礎知識を学ぶことで、感染予防対策を理解し、実施できる</li> <li>4. 看護における教育的関わりを理解する</li> </ol>									
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. コミュニケーションに関する基礎知識</td> <td>5～8. 感染管理の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>2. 看護とコミュニケーション</td> <td>9～14. 看護における教育・指導</td> </tr> <tr> <td>3. 看護場面における記録と観察の手順</td> <td>15. まとめ・終講試験</td> </tr> <tr> <td>4. コミュニケーション障害への対応</td> <td></td> </tr> </table>		1. コミュニケーションに関する基礎知識	5～8. 感染管理の基礎知識	2. 看護とコミュニケーション	9～14. 看護における教育・指導	3. 看護場面における記録と観察の手順	15. まとめ・終講試験	4. コミュニケーション障害への対応	
1. コミュニケーションに関する基礎知識	5～8. 感染管理の基礎知識								
2. 看護とコミュニケーション	9～14. 看護における教育・指導								
3. 看護場面における記録と観察の手順	15. まとめ・終講試験								
4. コミュニケーション障害への対応									
<p>学習上の注意</p> <p>患者の情報収集をするために必要な技術である。また、患者・スタッフとの会話を成立させるための技術でもある。医療者にとって、感染予防対策は切り離せないものである。感染管理をしていくために、必要な知識・技術は身につけていく。在院日数も短くなっている現状において、退院する患者への退院指導も個々に合わせて作成していく。</p>									
<p>成績評価の方法</p> <p>出席状況、課題の提出状況、終講試験を総合して評価する</p>									
<p>使用テキスト</p> <p>看護コミュニケーション ～基礎から学ぶスキルとトレーニング 医学書院 新体系看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ メヂカルフレンド社</p>									
<p>参考図書</p> <p>専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ（基礎看護学②） 医学書院 他、授業の中で提示</p>									
<p>DVD</p> <p>授業の中で提示</p>									

（旧カリキュラム）

授業形態：講義

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：認定心理士5年以上								
授業科目：心理学	単位（時間）：1単位（30時間）								
授業担当：高岡 美記	開講時期：2年次 前期								
<p>科目の概要</p> <p>心理学は「こころ」を科学する学問である。目に見えないこころを表すものが、人間の表情や状態、行動などである。こころのメカニズムを現れた行動により解明することで、行動に変化を与えることができる。こころは大変複雑であるため、心理学には多くの研究領域がある。その中で、看護に密接に関係する領域を中心に学習し、臨床心理での具体的事例の心理的援助方法を学習する。さらに、学生自身が自己概念を考え、学生生活の中で達成感を感じるための、ポジティブシンキングを身につける。</p> <p>目的：看護の対象の心理面を理解するための方法を修得する</p>									
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学の基礎的知識を理解し、看護へ関連して考える</li> <li>2. 人間の行動から、こころの動きを理論的に導き出すための、心理学の知識を理解する</li> <li>3. 健康に関する心理的なアプローチについて理解し、自身の心の健康へのセルフコントロールをする</li> </ol>									
<p>学習概要（授業計画）</p> <table> <tr> <td>1. 人間の心とは 心理学の背景とその目標</td> <td>11. 体験発表</td> </tr> <tr> <td>2～6. 看護に関係する心理学の基礎</td> <td>12. 心理学の応用Ⅱ</td> </tr> <tr> <td>7～10. 心理学の応用Ⅰ</td> <td>13～14. ポジティブな態度を身につけること</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. まとめ／終講試験</td> </tr> </table>		1. 人間の心とは 心理学の背景とその目標	11. 体験発表	2～6. 看護に関係する心理学の基礎	12. 心理学の応用Ⅱ	7～10. 心理学の応用Ⅰ	13～14. ポジティブな態度を身につけること		15. まとめ／終講試験
1. 人間の心とは 心理学の背景とその目標	11. 体験発表								
2～6. 看護に関係する心理学の基礎	12. 心理学の応用Ⅱ								
7～10. 心理学の応用Ⅰ	13～14. ポジティブな態度を身につけること								
	15. まとめ／終講試験								
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自身のこころに浮かんだことや感情について、他者に理解してもらうことを心がける</li> </ol>									
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する</li> </ol>									
<p>使用テキスト</p> <p>講義の際に提示</p>									
<p>参考図書</p> <p>講義の際に提示</p>									
<p>DVD</p> <p>講義の際に提示</p>									

（旧カリキュラム）

授業形態：講義

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：認定心理士5年以上
授業科目：人間関係論Ⅲ（カウンセリング）	単位（時間）：1単位（30時間）
授業担当：小幡 知史	開講時期：2年次 後期
<p>科目の概要</p> <p>看護は対人関係と医療チームの中で展開される。感情や意思をもった人間を看護するとき、人間尊厳の態度が求められる。また、より質の高い看護を提供しようとするとき、チームでの協同する力が必要になる。そのため、人間集団において活用されるカウンセリング（相談）と、グループダイナミックス（集団力学）の理論をもとに、よりよい看護とチーム活動を考えていく。また、集団における自己の位置と役割を自覚し、今なすべきことに邁進する力を育てる。</p> <p>目的：看護師が看護上で携わる人達と、良好な関係性を築くための基礎的能力を養う。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間について、「生きるとは」、「病むとは」、どういうことか考えを深める</li> <li>2. 人間援助の方法（カウンセリング）の理論と技法を理解する</li> </ol>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間理解の基礎</li> <li>2～14. 人間援助の方法</li> <li>15. まとめ／終講試験</li> </ol>	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活のあらゆる場面と関連させながら理論を学習していく。また、学習したことは、日常生活の中で実践していくことで身につけていく。</li> </ol>	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題レポート提出、出席状況や授業態度により評価する。</li> </ol>	
<p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平野馨著：対人関係の基礎知識－カウンセリングとグループダイナミックスの活用－，日本看護協会出版会</li> <li>2. 鶴田一郎：看護に生かすカウンセリング－その理論と技法，医学書院</li> <li>3. 川島・杉野共著：看護カンファレンス 第3版，医学書院</li> </ol>	
<p>DVD</p> <p>講義の際に提示</p>	

(旧カリキュラム)

授業形態：講義

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：医師5年以上
授業科目：微生物学	単位（時間）：1単位（30時間）
授業担当：鴨志田聡／千野裕介	開講時期：2年次 前期
<p>科目の概要</p> <p>生体や環境にとっての微生物の役割を知るとともに、人間の健康に及ぼす影響及び、病原微生物に対する防御について理解する。さらに、感染の経路や症状を理解し、感染症の予防及び治療を理解する。</p> <p>目的</p> <p>感染に係る病原微生物について理解し、感染症の診断と治療に関する知識を身につける。さらに、感染予防の方法を理解する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体や環境にとっての、微生物の役割（生物浄化と感染）について理解する</li> <li>2. 感染を起こす病原微生物の種類、特徴、生態防御、症状を理解する</li> <li>3. 感染予防の方法、病原微生物を死滅・消毒する方法を理解する</li> <li>4. 代表的な感染症の病態及び治療方法を理解する</li> <li>5. 病理学検査方法を理解する</li> </ol>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・微生物とは</li> <li>・感染と生体防御</li> <li>・感染予防</li> <li>・感染症の検査</li> <li>・消毒と滅菌</li> <li>・主な感染症</li> <li>・免疫のしくみ</li> <li>・自己免疫疾患</li> </ul>	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習を自身の感染予防に役立てるとともに、院内感染予防に努める。</li> </ol>	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する。</li> </ol>	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾病の成り立ちと回復の経過 微生物学 メヂカルフレンド社</li> <li>2. 系統看護学講座 アレルギー、膠原病、感染症 医学書院</li> </ol>	
<p>参考図書</p> <p>講義の際に提示</p>	
<p>DVD</p> <p>講義の際に提示</p>	

（旧カリキュラム）

授業形態：講義・実習

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：栄養士5年以上												
授業科目： 栄養学	単位（時間）： 1単位（30時間）												
授業担当： 森田 里衣子 他	開講時期： 2年次 前期												
<p>科目の概要</p> <p>人間にとっての食生活の意義を理解し、栄養の基本的概念を学ぶとともに、健康の保持・増進、健康障害の治療、食事療法に関する基礎的知識を学ぶ。さらに、食事療法および栄養状態を把握・評価する方法を学ぶ。摂取内容が生体の必要とする量と大きくずれると、生体の恒常性による調整能力を超え、代謝異常がおこり、疾病状態に移行する。食習慣が誘因となって発症する慢性疾患（生活習慣病）、傷病者や高齢者にみられる低栄養状態に対する栄養補給、カテーテルを用いる経管栄養食品・栄養剤などの特殊栄養食品等の栄養補給についても学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>看護職として活動する上で必要な、健康の保持・増進のための、食品や食事の選択に関する基本的な知識を修得する。</p>													
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常の正しい食事と健康の関連について理解する</li> <li>2. 栄養食事療法の、意義・目的を理解する</li> <li>3. 栄養食事療法の、計画立案・実施・評価の仕方を理解する</li> <li>4. 栄養代謝障害について理解する</li> </ol>													
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 人間栄養学と看護</td> <td>5～8.</td> <td>臨床栄養</td> </tr> <tr> <td>2. ライフステージと栄養</td> <td>9～11.</td> <td>調理実習</td> </tr> <tr> <td>3. 栄養ケア・マネジメント</td> <td>12～14.</td> <td>食事と食品</td> </tr> <tr> <td>4. 栄養状態の評価・判定</td> <td>15.</td> <td>終講試験</td> </tr> </table>		1. 人間栄養学と看護	5～8.	臨床栄養	2. ライフステージと栄養	9～11.	調理実習	3. 栄養ケア・マネジメント	12～14.	食事と食品	4. 栄養状態の評価・判定	15.	終講試験
1. 人間栄養学と看護	5～8.	臨床栄養											
2. ライフステージと栄養	9～11.	調理実習											
3. 栄養ケア・マネジメント	12～14.	食事と食品											
4. 栄養状態の評価・判定	15.	終講試験											
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生化学、解剖生理学の既習の知識をもとに学習を深める</li> </ol>													
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 終講試験、課題レポート、出席状況・授業態度を総合して評価する</li> </ol>													
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 栄養学 医学書院</li> <li>2. 系統看護学講座 内分泌・代謝 医学書院</li> </ol>													
<p>参考図書</p> <p>なし</p>													



（旧カリキュラム）

授業形態：講義

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上						
授業科目：成人看護学Ⅱ （経過別看護・リハビリテーション期①）	単位（時間）：1単位（30時間）						
授業担当：鈴木／谷田部／坪井	開講時期：2年次 前期						
<p>科目の概要</p> <p>急性期にある患者は急激な健康障害にともなう、さまざまな反応を起こしている。急性期であることによる特徴を理解し、必要な看護援助を学ぶ。回復期・リハビリテーション期とは急激な健康障害を乗り越え、機能の回復を図る過程の時期と位置づける。急性期から回復過程にある患者及び家族を理解し、障害を抱えながらもその人らしい生活を再構築していく過程を支援するための理論と実践方法を学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>急性期にある患者及び家族を理解し、恒常性の回復促進、合併症の予防、苦痛の緩和にむけた看護援助を理解する。</p> <p>回復期・リハビリテーション期にある患者及び家族を理解し、回復への支援・生活の再構築を必要としている患者及び家族の支援に必要な看護援助について理解する。</p>							
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>急性期看護の考え方を理解する</li> <li>急性期にある人、急性期から回復過程にある人の特徴を理解する</li> <li>呼吸機能障害のある患者の看護を理解する</li> <li>循環機能障害のある患者の看護を理解する</li> </ol>							
<p>学習概要（授業計画）</p> <table> <tr> <td>1～2. 急性期看護の考え方 急性期にある人の特徴と理解</td> <td>8～10. 循環機能障害のある対象の看護 11～14. 急性心筋梗塞患者の看護過程の展開</td> </tr> <tr> <td>3. 急性期にある人々への看護援助</td> <td>15. 終講試験</td> </tr> <tr> <td>4～7. 呼吸機能障害のある患者の看護</td> <td></td> </tr> </table>		1～2. 急性期看護の考え方 急性期にある人の特徴と理解	8～10. 循環機能障害のある対象の看護 11～14. 急性心筋梗塞患者の看護過程の展開	3. 急性期にある人々への看護援助	15. 終講試験	4～7. 呼吸機能障害のある患者の看護	
1～2. 急性期看護の考え方 急性期にある人の特徴と理解	8～10. 循環機能障害のある対象の看護 11～14. 急性心筋梗塞患者の看護過程の展開						
3. 急性期にある人々への看護援助	15. 終講試験						
4～7. 呼吸機能障害のある患者の看護							
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>主体的な学習となるよう積極的な態度で臨む</li> </ol>							
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>出欠席状況、課題レポート状況、終講試験を総合して評価する</li> </ol>							
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>成人看護学 急性期看護論 ニューヴェルヒロカワ</li> </ol> <p>参考文献</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>系統看護学講座 成人看護学2 呼吸器 医学書院</li> <li>系統看護学講座 成人看護学3 循環器 医学書院</li> <li>系統看護学講座 臨床看護総論 医学書院</li> </ol>							

（旧カリキュラム）

授業形態：講義

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上
授業科目： 成人看護学Ⅲ (経過別看護・リハビリテーション期②)	単位（時間）： 1単位（30時間）
授業担当： 大部、中川、前嶋、赤木	開講時期： 2年次 前期
<p>科目の概要</p> <p>急性期にある患者は急激な健康障害にともなう、さまざまな反応を起こしている。急性期であることによる特徴を理解し、必要な看護援助を学ぶ。回復期・リハビリテーション期とは急激な健康障害を乗り越え、機能の回復を図る過程の時期と位置づける。急性期から回復過程にある患者及び家族を理解し、障害を抱えながらもその人らしい生活を再構築していく過程を支援するための理論と実践方法を学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>急性期にある患者及び家族を理解し、恒常性の回復促進、合併症の予防、苦痛の緩和にむけた看護援助を理解する。</p> <p>回復期・リハビリテーション期にある患者及び家族を理解し、回復への支援・生活の再構築を必要としている患者及び家族の支援に必要な看護援助について理解する。</p>	
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーション看護の考え方を理解する</li> <li>2. 急性期から回復過程にある人の特徴を理解する</li> <li>3. 生活の再構築を支える看護援助について理解する</li> <li>4. 生活機能障害別リハビリテーション看護について理解する</li> </ol>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーション看護の考え方（障害者施策の変遷と倫理的課題、経過別リハビリテーション）</li> <li>2～6. リハビリテーションを必要とする人への看護援助</li> <li>7～10. 疾患別リハビリテーション看護</li> <li>11～14. 生活機能障害別リハビリテーション看護</li> <li>15. 終講試験</li> </ol>	
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主体的な学習となるよう積極的な態度で臨む</li> </ol>	
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出欠席状況、課題レポート状況、終講試験を総合して評価する</li> </ol>	
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人看護学 リハビリテーション看護論 ヌーベルヒロカワ</li> </ol> <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 成人看護学7 脳・神経 医学書院</li> <li>2. 系統看護学講座 成人看護学10 運動器 医学書院</li> </ol>	

（旧カリキュラム）

授業形態：講義

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上						
授業科目：成人看護学Ⅳ（経過別看護・周手術期）	単位（時間）： 1単位（30時間）						
授業担当：渡辺、前嶋、小笠原、海老根、小野田、後藤、海老沢	開講時期： 2年次 前期						
<p>科目の概要</p> <p>周手術期にある人の特徴を理解し、手術侵襲からの早期回復を促進する看護援助について学ぶ。 また周手術過程に応じた看護について学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>手術療法を受ける患者とその家族を理解し、術後合併症のリスクを予測して、術後の回復を促進する看護を理解する。</p>							
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 周手術期看護の専門性と看護の役割を理解する</li> <li>2. 周手術期にある人の特徴を理解し、必要な看護援助を理解する</li> <li>3. 周手術期に応じた看護の特徴を理解する</li> <li>4. 術後合併症と予防のための看護援助を理解する</li> </ol>							
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 周手術期看護の考え方</td> <td>7～12. 術式による特徴的な手術看護</td> </tr> <tr> <td>2. 周手術期にある人の特徴と理解</td> <td>13～14. 直腸がんの手術を受ける人の看護</td> </tr> <tr> <td>周手術期にある人への看護援助</td> <td>15. 終講試験</td> </tr> </table> <p>3～4. 周手術過程に応じた看護 術前・術中・術直後</p> <p>5～6. 術後合併症と予防のための看護技術</p>		1. 周手術期看護の考え方	7～12. 術式による特徴的な手術看護	2. 周手術期にある人の特徴と理解	13～14. 直腸がんの手術を受ける人の看護	周手術期にある人への看護援助	15. 終講試験
1. 周手術期看護の考え方	7～12. 術式による特徴的な手術看護						
2. 周手術期にある人の特徴と理解	13～14. 直腸がんの手術を受ける人の看護						
周手術期にある人への看護援助	15. 終講試験						
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主体的な学習となるよう積極的な態度で臨む</li> </ol>							
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出欠席状況、課題レポート状況、終講試験を総合して評価する</li> </ol>							
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人看護学 周手術期看護論 ヌーベルヒロカワ</li> </ol> <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 成人看護学 2 呼吸器 医学書院</li> <li>2. 系統看護学講座 成人看護学 3 循環器 医学書院</li> <li>3. 系統看護学講座 成人看護学 5 消化器 医学書院</li> <li>4. 系統看護学講座 成人看護学 7 脳・神経 医学書院</li> <li>5. 系統看護学講座 成人看護学 9 女性生殖器 医学書院</li> <li>6. 系統看護学講座 成人看護学 10 運動器 医学書院</li> </ol>							

（旧カリキュラム）

授業形態：講義

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上										
授業科目：成人看護学Ⅴ（経過別看護・慢性期）	単位（時間）：1単位（30時間）										
授業担当：大部、斎藤、馬場、猪野、井田 他	開講時期：2年次 前期										
<p>科目の概要</p> <p>慢性期とは慢性の状態にある時期であり、長期にわたり患者と医療者が病気をマネジメントしていく時期である。慢性期にある人の看護は、慢性期にある患者とその家族のもつ力を重視し、患者が自らの問題に気づき、病気と折り合いをつけて生活できるように働きかけることが重要である。患者に必要な生活の質の維持・充実を目標とした看護実践について学ぶ。</p> <p>目的</p> <p>慢性期にある患者及び家族の特徴を理解し、生涯にわたって治療や療養のマネジメントを必要とする患者及び家族へ必要な看護援助について理解する。</p>											
<p>学習の到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 慢性期看護の考え方を理解する</li> <li>2. 慢性期にある人の特徴、必要な看護援助を理解する</li> <li>3. 慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護を理解する</li> <li>4. 慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ患者の看護を理解する</li> <li>5. 慢性の代謝機能障害・内部環境調整障害をもつ患者の看護を理解する</li> <li>6. 慢性の造血機能障害・生体防御機能の障害・運動機能障害をもつ患者の看護を理解する</li> <li>7. 化学療養・放射線療法を受ける患者の看護を理解する</li> </ol>											
<p>学習概要（授業計画）</p> <table border="0"> <tr> <td>1～2. 慢性期看護の考え方 慢性期にある人の特徴と看護 慢性期にある人への看護援助</td> <td>9～10. 慢性の造血機能障害・生体防御 機能障害をもつ患者の看護 慢性の運動機能障害を受ける患者の看護</td> </tr> <tr> <td>3. 慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護</td> <td>11. 化学療法を受ける患者の看護</td> </tr> <tr> <td>4. 慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ 患者の看護</td> <td>放射線療法を受ける患者の看護</td> </tr> <tr> <td>5～8. 慢性の代謝機能障害・内部環境 調整障害をもつ患者の看護</td> <td>12～14. 看護過程の展開</td> </tr> <tr> <td></td> <td>15. 終講試験</td> </tr> </table>		1～2. 慢性期看護の考え方 慢性期にある人の特徴と看護 慢性期にある人への看護援助	9～10. 慢性の造血機能障害・生体防御 機能障害をもつ患者の看護 慢性の運動機能障害を受ける患者の看護	3. 慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護	11. 化学療法を受ける患者の看護	4. 慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ 患者の看護	放射線療法を受ける患者の看護	5～8. 慢性の代謝機能障害・内部環境 調整障害をもつ患者の看護	12～14. 看護過程の展開		15. 終講試験
1～2. 慢性期看護の考え方 慢性期にある人の特徴と看護 慢性期にある人への看護援助	9～10. 慢性の造血機能障害・生体防御 機能障害をもつ患者の看護 慢性の運動機能障害を受ける患者の看護										
3. 慢性の呼吸機能障害をもつ患者の看護	11. 化学療法を受ける患者の看護										
4. 慢性の栄養摂取・消化機能障害をもつ 患者の看護	放射線療法を受ける患者の看護										
5～8. 慢性の代謝機能障害・内部環境 調整障害をもつ患者の看護	12～14. 看護過程の展開										
	15. 終講試験										
<p>学習上の注意</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主体的な学習となるよう積極的な態度で臨む</li> </ol>											
<p>成績評価の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出欠席状況、課題レポート状況、終講試験を総合して評価する</li> </ol>											
<p>使用テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人看護学 慢性期看護論 ノーベルヒロカワ</li> </ol> <p>参考図書</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 成人看護学5 消化器 医学書院</li> </ol>											

（新・旧カリキュラム）

授業形態：講義

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5年以上
授業科目： 看護の共通基本技術	単位（時間）： 1 単位（45 時間）
授業担当： 木植 益弘	開 講 時 期： 1 年次 前期
<p>&lt;学習目的&gt; 看護行為に共通する援助技術について学び、対象を総合的に理解して援助する能力を高める。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションの構成要素と成立過程を理解し、適切なメッセージの伝え方を学ぶ。</li> <li>2. 看護における教育的関わりを理解する。</li> <li>3. バイタルサインの基礎的知識を理解する。</li> <li>4. 全身状態を系統的に把握する方法を学ぶ。</li> <li>5. 看護過程の基礎的知識を学ぶ。</li> </ol>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間関係を発達させる技術</li> <li>2. 看護における教育・指導</li> <li>3. 身体的情報をアセスメントする技術</li> <li>4. 快適な病床環境をつくる技術</li> <li>5. 感染防止・安全を確保する技術</li> <li>6. 安楽促進と呼吸循環を整える技術</li> <li>7. 看護を展開するための技術</li> <li>8. 看護ケアの継続をはかる技術</li> </ol>	
<p>評価方法</p> <p>レポート、筆記試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）</p>	
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 基礎看護技術 医学書院</p>	
<p>備考</p> <p>本校通信学習</p>	

（新・旧カリキュラム）

授業形態：講義

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上
授業科目： 看護過程の基礎	単位（時間）： 1単位（45時間）
授業担当： 木植 益弘	開講時期： 1年次 前期
<p>&lt;学習目的&gt;</p> <p>あらゆる対象に看護を実践するための科学的思考過程である看護過程について理解を深め、事例演習を通して看護過程の展開の実践能力を高める。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の目的を達成するため看護過程の意義を理解する。</li> <li>2. 事例をもとに看護解決過程やクリティカルシンキング、情報の分析の方法、倫理的判断といった看護過程の基盤となる考え方について理解する。</li> <li>3. アセスメント、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価といった看護過程の各段階について、基本的な考え方を理解する。</li> <li>4. ヘンダーソンの看護論に基づいた看護過程の展開が、紙上事例を通してできる。</li> </ol>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程とは</li> <li>2. 看護過程の展開</li> <li>3. 事例を用いた看護過程の展開①（情報収集・整理、関連図）</li> <li>4. 事例を用いた看護過程の展開②（情報の分析と解釈）</li> <li>5. 事例を用いた看護過程の展開③（看護問題の明確化と優先順位）</li> <li>6. 事例を用いた看護過程の展開④（看護計画と目標の設定）</li> <li>7. 事例を用いた看護過程の展開⑤（援助方法の選択、具体策の立案）</li> <li>8. まとめ</li> </ol>	
<p>評価方法</p> <p>レポート</p>	
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 基礎看護技術 医学書院 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第4版 ニューヴェルヒロカワ</p>	
<p>備考</p> <p>本校面接授業</p>	

（新・旧カリキュラム）

授業形態：講義

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師5年以上
授業科目：成人看護学概論	単位（時間）：1単位（45時間）
授業担当：澤島 李恵	開講時期：1年次 前期
<p>&lt;学習目的&gt;</p> <p>成人期にある対象を総合的に理解し、対象とその家族に対して健康の保持・増進および様々な健康レベルでの障害時の看護を実践する能力を養う。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期にある対象を身体的・精神的（霊的を含む）・社会的側面から総合的に理解する。</li> <li>2. 成人期の健康問題と影響を及ぼす要因を理解する。</li> <li>3. あらゆる健康状態にある成人期の対象及び家族に対し、看護の方法と役割を理解する。</li> <li>4. 成人保健の動向および保健システムを理解し、保健医療チームの一員としての役割を理解する。</li> </ol>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人の生活と健康</li> <li>2. 成人の看護アプローチの基本</li> <li>3. 成人の健康レベルに対応した看護</li> <li>4. 健康生活の急激な破綻から回復を促す看護</li> <li>5. 健康生活の慢性的なゆらぎの再調整を促す看護</li> <li>6. 障害がある人の生活とリハビリテーション</li> </ol>	
<p>評価方法</p> <p>レポート、筆記試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）</p>	
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 成人看護学 1～15 医学書院</p>	
<p>備考</p> <p>本校通信学習</p>	

（新・旧カリキュラム）

授業形態：講義

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：看護師 5年以上
授業科目： 看護管理	単位（時間）： 1単位（45時間）
授業担当： 川又 光子	開講時期： 1年次 後期
<p>&lt;学習目的&gt;</p> <p>医療チームの一員としてのあり方を実際の臨床場面をもとに考えることで、チーム医療・看護ケアにおける看護としてのマネジメントができる基礎的能力を養う。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. チーム医療の中の多職種との連携・協働の必要性と実際が理解できる。</li> <li>2. 看護における管理の意味と必要性が理解できる。</li> <li>3. 看護サービスにおける看護管理が理解できる。</li> <li>4. 諸制度と看護管理について理解できる。</li> <li>5. マネジメントに必要な知識と技術が理解できる。</li> </ol>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護を取り巻く諸制度</li> <li>2. 看護管理とは</li> <li>3. 病院の中でのチーム医療の実際</li> <li>4. 看護におけるマネジメント</li> <li>5. 看護サービスと看護管理</li> <li>6. 安全管理</li> <li>7. 労務管理</li> </ol>	
<p>評価方法</p> <p>レポート、筆記試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）</p>	
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 看護管理 医学書院</p>	
<p>備考</p> <p>本校通信学習</p>	



※旧カリキュラムのみ

授業形態：講義

実務経験のある教員等による授業科目：有	資格・経験等：臨床心理士5年以上
授業科目：心理学	単位（時間）：1単位（45時間）
授業担当：高山 かおり	開講時期：2年次 前期
<p>&lt;学習目的&gt;</p> <p>心理学には、様々な研究領域が存在する。本科目では、看護の業務に密接に関連する内容を中心に学習し、援助対象者への理解を深めることを目的とする。また、相手を理解するためには、まずは自分自身を知ることが重要である。自己理解を深め、そして他者理解をし、対人援助技術の習得につなげていく。加えて、対人援助職として重要となる、自分自身のメンタルヘルスケアについて考える姿勢を身につける。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学の基礎的知識を理解し、看護へ関連して考える。</li> <li>2. 自己理解を深めた上で、援助対象者の考えや価値観を慮る姿勢を身につける。</li> <li>3. よりよい援助を行う上で欠かせない、援助者自身の心の健康を考える。</li> </ol>	
<p>学習概要（授業計画）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学とは</li> <li>2. 感覚と知覚、記憶</li> <li>3. 思考・言語・知能、学習</li> <li>4. 感情と動機づけ</li> <li>5. 性格とパーソナリティ、社会と集団</li> <li>6. 発達</li> <li>7. 心理臨床</li> <li>8. 医療・看護と心理</li> </ol>	
<p>評価方法</p> <p>レポート、筆記を用いた試験（単位認定試験は本校試験会場にて実施）</p>	
<p>テキスト</p> <p>系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院</p>	
<p>備考</p> <p>本校通信学習</p>	